花と緑の創出による地域コミュニティ

中山台コミュニティ緑化環境対策部 部長 ○秦 清 副部長 飯室 裕文 副部長 内田 順子

1. 活動方針 目的

中山台コミュニティは、兵庫県宝塚市の市街地北部に位置する昭和 40 年代に開発された新興住宅地の地域コミュニティです。中山台コミュニティでは、11 の自治会と 8 つの専門部会で構成され日々住民のための活動を展開しています。当地区内にある自然緑地には、かつて一面にわたってヤシャブシが群生しており、平成 6 年頃にはヤシャブシによるアレルギー等の問題が深刻化し、その解決が地域の大きな課題となっていました。そこで自治会協議会は平成 7 年に緑化対策部を立ち上げ(現在はコミュニティの部会の一つ)取り組みを開始しました。当部はニュータウン内を望ましい植生に復元し住民の健康の維持とふさわしい緑化環境の整備保全を目的としています。約 10 年でほぼヤシャブシは一掃され、活動は現在花と緑の創出による良好な緑地管理に主軸を移しており、今後の継続と発展を目指し新たな目標として「30 年計画」を掲げ、「美しい自然に囲まれた快適な暮らし」の実現に向けて活動を継続しています。

2. 活動内容

当部会は自治会の活動を基本にニュータウン全域の緑化事業を担当しています。自治会間の調整や行政との窓口の役割、全体の作業などを実施しています。

活動により、約 10 年かかり推定 2 万本の膨大なヤシャブシが一掃された後には、在来種のツツジやサクラ等がよみがえり、シンボルゾーンとして「ヒペリカムの丘」等を整備し、住宅地としての魅力を一層高める美しい緑地空間に改善しました。「行政だけでも、住民だけでもできないことを共に協力して〜」をモットーに、住民が処理し行政が片づけることなど役割分担を明確にし、取り組み始めてから 16 年間市職員と合同で緑化活動等を定例的に行う等して、官民協働の関係も構築できました。最近は、地区内の 5 つの公園について市と管理契約を締結して自治会が管理業務を請け負うほか、小学校の P T A や教員も一緒になり、教育活動の一環として学内の緑化活動にも取り組んでいます。

平成 22 年度の活動実績は費用約 253 万円、活動回数 50 回 延べ参加人数 818 人でした。

3. 他の活動団体の参考となる事例

行政との役割分担を明確にすることで、官民協働の良好な関係を築くことができました。当地区内の5つの公園は、自治会が市と管理契約を締結し、日常的な管理業務を請負うほか、小学校のPTAや教員も一緒になり、教育活動の一環として緑化活動にも発展しています。また、活動資金を安定確保させるため各戸を対象とした基金(年 100 円/戸)を創設したり、植生専門家の協力を得るなど、活動の発展のための工夫を凝らしています。また今後も、継続と発展を目指し新たな目標として「30 年計画」を掲げ、「美しい自然に囲まれた快適な暮らし」の実現に向けて活動を継続しています。

4. 今後の課題等

少子高齢化が進み、高齢化率が 40%を超える地域も存在し、地域の商業施設が衰退するなど典型的な古い新興住宅地である点は将来の不安材料です。住民は住み続けたいと思う人が多く、逆境であっても頑張っています。住み続けることができ、住んでみたいと思われるような付加価値を今後も創りだしていくことが大きな課題です。また、後継者の育成も懸念材料のひとつです。

第7回関西元気な地域づくり発表会

花と緑の創出による地域コミュニティ

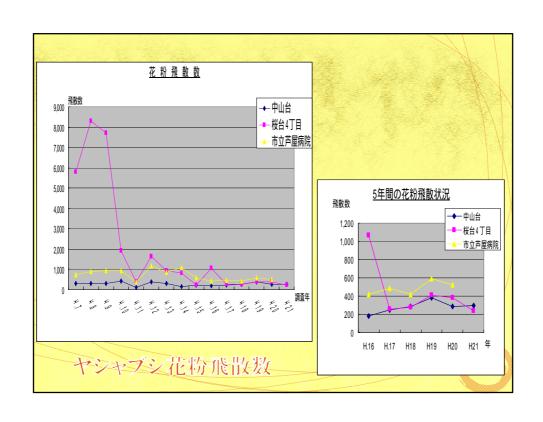
中山台コミュニティ緑化環境対策部 飯室裕文

活動方針·目的

- 平成6年、ヤシャブシ問題
- 専門家を交え宝塚市と調査、話し合い
- 自治会協議会に部会を設置
- 平成7年ルールをつくり取り組み開始
- 現在は「美しい自然に囲まれた快適な暮らし」 をテーマに30年計画で

活動内容

- 中山台ニュータウン全域の緑化事業を担当
- 行政と「参画と協働」事業
- ●間伐、草刈り、桜の手当て・・・。
- 平成22年度実績 費用253万円、活動回数50回、参加人数818人。 業者発注も





他の活動団体の参考となる事例

- 行政と「参画と協働」の取り組み
- 専門家の意見も取り入れ
- 自治会が年間一戸当たり100円を拠出
- 住民全体の取り組み

今後の課題等

- 少子高齢化が進む地域のしくみづくり
- 住民の希望に沿った緑化環境活動の展開
- ・人材づくり



